

# クリニック訪問 若手医師の 新クリニック

東京は、世田谷区三軒茶屋駅(田園都市線)に  
2011年2月オープンの新設クリニックを  
取材訪問しました。



## 『ここで治療を受けたい』と 慕われる婦人科、不妊専門 施設を築きたい

保坂 猛 院長

三軒茶屋ウィメンズクリニック

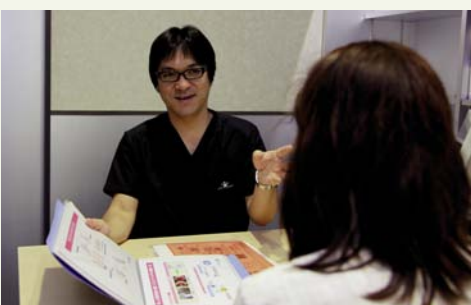
Dr. Takeshi Hosaka

には、患者さんの夢以上に自分の夢を実現されていらつしやる方も多いようです。一生懸命に治療をするので、そこでも有名になり、クリニックが大きくなることもよいでしょう。それがより都合良く患者さんや社会利益となって還元されていけば良いことですが、そのバランスや医療精神が崩れると、急に色あせて見えてくるものがあります。きつと不妊治療(生殖医療)を受けている多くの人、関係する人がそのことを思い、知っていることでしょうか。

「不妊治療では、とにかくご夫婦に寄り添うことが大切だと考えています。それは、治療自体が夫婦お二人のお子さんを儲けるためのものだからです。寄り添うと言っても、もちろんしっかりした医療を提供することが大前提です。そのために、患者様から治療スケジュールを立てて臨んでいくか、誘発方法であれば、それも刺激周期、低刺激という方法にこだわるのではなく、まずは患者様から診てベストを尽くしていくということですね。」



●シックな色調で統一され、照明にはLEDが使われた院内。気負わず通えそうな雰囲気、スタッフの笑顔がさらに安心感を呼ぶ。東急田園都市線・三軒茶屋駅から昭和女子大学方面に徒歩3分というロケーションは、行き交う女子大生も多く、通院時も明るく感じられそう。また、クリニックの入るビル1階はコンビニエンスストアと便利。ここでの診療は、子どもを願うご夫婦に寄り添った不妊治療&高度生殖補助医療。地域的には婦人科としての役割も大きい。



保坂医師の抱負は？  
東京に誕生した一つのクリニック。地域的にも今までにないスポットでの開院に、期待が高まります。まずは施設を拝見し、撮影を終えると、一種新しい時代の流れを感じるのです。さて、その新風は、患者にとって心地よく爽やかなものでしょうか？  
「...そうあることを願いますが、お話がうかがえました。」  
先生は、どのようなクリニックにしていきたいですか？  
すると、とてもにやかな表情で「医療の質をしっかりと整えることは当然ですが、不妊症に悩まれていらつしやるご夫婦から、『保坂先生だから』そして『ここ、三軒茶屋ウィメンズクリニックだから』治療を受けたい！治療を続けたい！と思っただけの婦人科、治療施設にしていきたいですね」と答えられました。  
私たちはこの表情と答えに、このクリニックの価値を大きく感じたような気がしました。  
医師や治療施設の中には、よく患者さんご夫婦に対して上から目線で接するところが

あるようです。ある意味、高度な生殖医療ともなれば患者さんにとっては医療に委ねざるを得ない面がありますから、たとえ上から目線であろうと、結果が納得できればそれで良いとする思いもあるでしょう。  
しかし、不妊治療はご夫婦に寄り添うメンタル面も医療の質に加算される、微妙なさじ加減をもつものです。ここで医師が信頼され、クリニックが信頼されるということはとても大事なことです。  
「あのクリニックでは患者が泣かされている」そんなことが通用する時代ではありません。そのような医療では、スタッフも患者さんご夫婦もストレスがたまり、スタッフの職場移動や患者の転院という不安定な結果を招くことでしょう。  
保坂医師は、若手の医師として不妊治療の清々しい将来像をみているでしょう。そのことを一番の抱負にしていることは期待が持てます。  
期待から始まるもの  
生殖医療に携わる先生の中

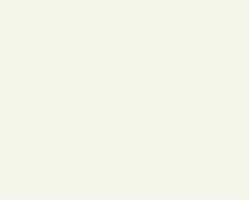


### 保坂猛プロフィール

聖マリアンナ医科大学卒業。大田原赤十字病院勤務。聖マリアンナ医学大学産婦人科医長、聖マリアンナ医学大学産婦人科非常勤講師。ファティリティッククリニック東京勤務を経て、2011年2月2日、三軒茶屋ウィメンズクリニック開院。



●取材時にいただいた三軒茶屋ウィメンズクリニックスタッフの笑顔。  
左から看護師、培養士、看護師、院長（保坂医師）、医療事務職員。「治療や検診を希望する多くの方と接することができ、皆様に私たちの笑顔をお届けできるといいです…」と、抱負が伝わります。



●三軒茶屋ウィメンズクリニックのシンボルマークは患者様の気持ちを理解し、誠実な診療が行える婦人科を目指す意味と、Safety（安心）、Smile（笑顔）、Service（サービス）の「S」をハートのリボンでお届けする気持ちをデザイン化したとのこと。

TEL. 03-5779-7155

診療科目／婦人科（婦人病・不妊治療）

診療時間／午前 09：30～12：30

午後 15：30～19：00

休診日／木曜日・土曜日の午後

日曜日・祝日



<http://www.sangenjaya-wcl.com/index.html>



●東京都世田谷区太子堂1-12-34-2F  
東急田園都市線「三軒茶屋駅・南口A出口」から昭和女子大学方面徒歩3分。東急世田谷線「三軒茶屋駅」より徒歩4分。

### スタッフをご紹介します

では、その目標に向け、どのようなスタッフで努めていくのでしょうか？

それぞれの顔ぶれを見ていくと、看護師長は、東海地区でも実績ある不妊専門クリニックに従事経験を持ち、さらに生殖医療で役に立ちたいと加わっています。

また、生殖医療の要となる培養室スタッフも、クリニックの方針に賛同し、院長やスタッフとともに、ご夫婦の夢を大事に、その夢を叶えることにお手伝いできることをやりがいとする培養士が、三軒茶屋ウィメンズクリニックを選んで勤めています。

「ご夫婦との信頼関係を築い

メンズクリニックを選んでいただけるようにしたいのです。患者様の数も、丁寧に診療ができる範囲であればいいと思っていますし、築き上げるのも施設の規模や名声ではなく、個々のご夫婦との信頼関係だと考えています。それが当院の大筋の方針です」

### 最後に

どこにでもある医療施設で、忘れてはいけないもの。

そして、大切にしなければいけないこと…。

「三軒茶屋ウィメンズクリニックは、新しいクリニックです。違った形の不妊治療施設をお探しの方、治療に行くことに躊躇していらっしゃるご夫婦、ぜひ一度お目にかかれればと思います。」

また日ごろの婦人科では、がん検診など、定期的にしつかりした検査が必要なものもありますので、女性のライフパートナーとして、お近くの主治医としてもぜひお使いください」

### スタッフメッセージ／小野寺 看護師



不妊治療は、治療をすれば必ず妊娠・出産できるというものではありません。そのため、患者様にはそれぞれの希望や挫折感が芽生え、喜びだけでなく悩み苦しむことも多々あります。また、患者様は患者である前に一人の女性、一人の人間ですから、そこでそれぞれに抱える想い、悩みも全く異なってきます。私たちは、そのことをいつも念頭に置き、患者様の言動や行動にも気を配りながら、その方に合った看護を提供することを心がけ、時に“一人で悩みや苦しみを抱え込まないで”とお伝えしながら、患者様がよりよい環境で治療に取り組むことができるよう、お手伝いさせていただいております。不妊治療は一人の努力だけでは成立しません。家族のサポートや医療の力、社会の理解や支援…。さまざまなサポートに支えられて治療が進んでいきます。私は、看護師としてだけでなく、同じ女性として患者様のサポートメンバーの一員となり、皆様にとって心強い存在でありたいと思っています。

### スタッフメッセージ／丸岡 胚培養士



培養室の仕事で、私たちがとくに気を使い、注意していることの一つに、患者様の取り違いがありません。このようなことが起きないためにも、いえ、基本的にひとつ一つの作業を常にきちんと行なうためにも、私は胚培養士として、細胞を扱うときは患者様の顔を思い浮かべ、患者様（の夢や希望・現実）に向き合うように努めています。その姿勢で、一つひとつ丁寧に作業することへの心がけも深まります。このような気持ちです。患者様には、分からないことがあれば何でも聞いてほしいと思っています。患者様から気軽に話しかけられ、一人でも多くの方が卒業されること。そして、毎日の治療の中で抱えているストレスを少しでも軽減できるよう、クリニックスタッフとして日々努めていきたいと思っています。